

「君子は和して同ぜず」

JJ1SXA 池

論語の 1 節に、「君子は和して同ぜず、小人は同じて和さず」というのがあります。(君子とは、模範とすべき立派な人物のことであり、小人とは、君子でない人物のことを言うようです)

…君子というものは、他人とよく心を合わせて事に当たるが、自分というものを見失って他人に引きずられたり、へつらったりしないものだ。

それに反して小人は、人に引きずられたり、へつらったりはするけれども、本当に自分の立場を守りつつ他と調和していくことはないのだ…という意味だそうです。

また、「愚者は己を賢いと思うが、賢者は己が愚かなことを知っている」と、かのシェークスピアも言っています。

私も、君子であり、賢者でありたいと思いますが、なかなか凡人には、程遠い理想の境地と言えそうです。

曾野綾子氏が、どこかで、…「それを守らないと、まっとうな人間として存在し得ないと思われる聖域はれつきとしてある。

それは、真理(或いは道理)と勇氣(或いは徳)を堅持することである、すべき根幹の真理は実は明白である。

その基本的なルールは、誰が口出ししようが、動くわけがないものだから却って扱いは簡単なはずなのである。

真理と道理は、実はいかなる時代にあっても強力な武器となる、それがぴしっと通っていさえすれば、人をみたら怒鳴ったり威張ったりして自分の意志を通そうとする人が周辺にいても、その人に動かされずに済む。

愚かな人ほど怒鳴ったり威張ったりするものだと昔から決まっていて、ほんとうに恐いのは優しく真理を保持し続ける謙虚な人である、道理(真理)は人間を従わせるのだ。」…と述べていました。

なるほどと、この文章を噛み締めて読みましたが、一寸前に新聞紙上を賑わせた、さる官庁に対する、かの議員さんのみならず、実際に、学歴や資格、肩書き等に頼って、道理(真理)を見失ってしまっている人が回りには結構いるもので、「人のふり見て、我がふり直せ」という言葉を再認識した次第です。

ともあれ、240グループは、紳士的な言動を基調として、和を保つということで、永く続いてきたものと思います。

これからも、このような良き伝統は守り続けて行きたいものですね。